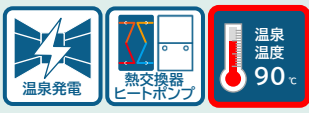




嬉野八十八における エネルギーサービス事業

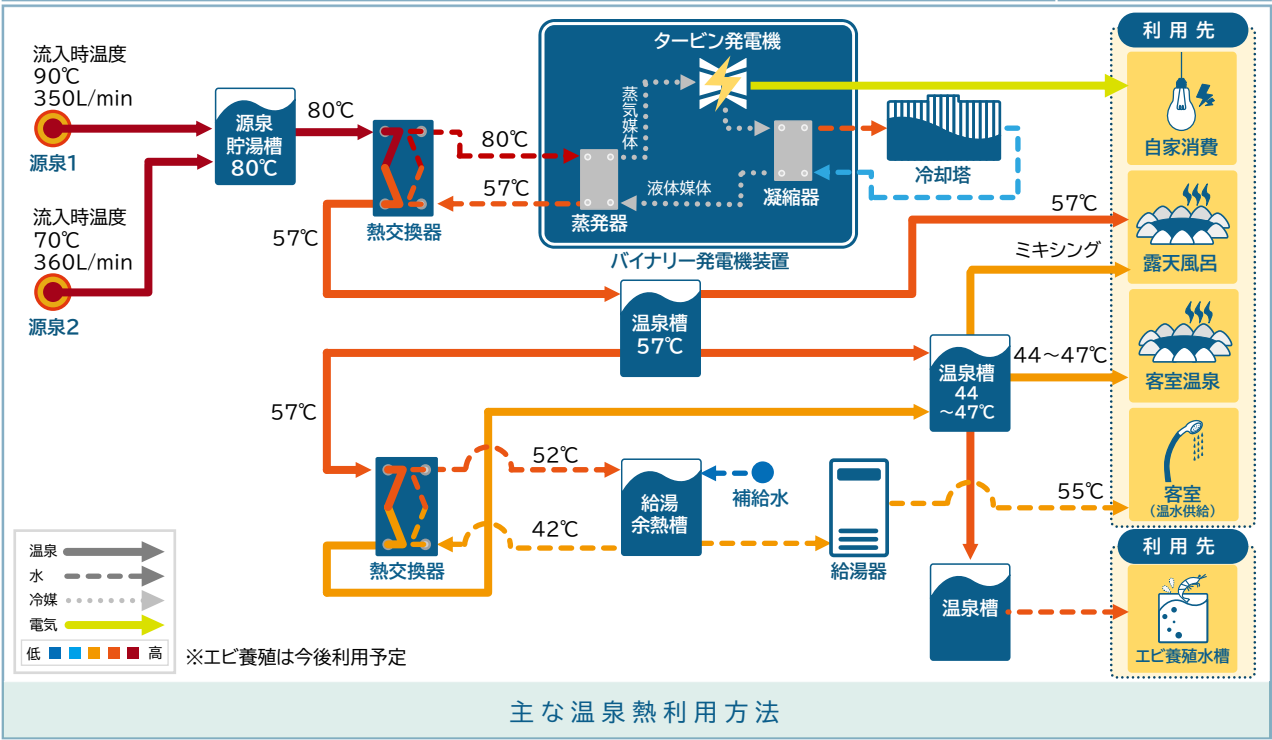


概要

2018年に廃業した温泉宿泊施設の跡地で計画された。新幹線新駅「嬉野温泉」の開業に合わせ、地域のシンボルとしてJR九州が建設した宿泊施設「嬉野八十八(うれしのやどや)」において、バイナリー発電・温泉熱のカスケード利用を図る。
京葉ガスエネルギーソリューションがエネルギーサービス事業として、施設内のバイナリー発電を始めとした温泉熱カスケード利用システムを建設・所有・運用し、宿泊施設側から毎月のサービス料金により費用を回収する事業となっている。



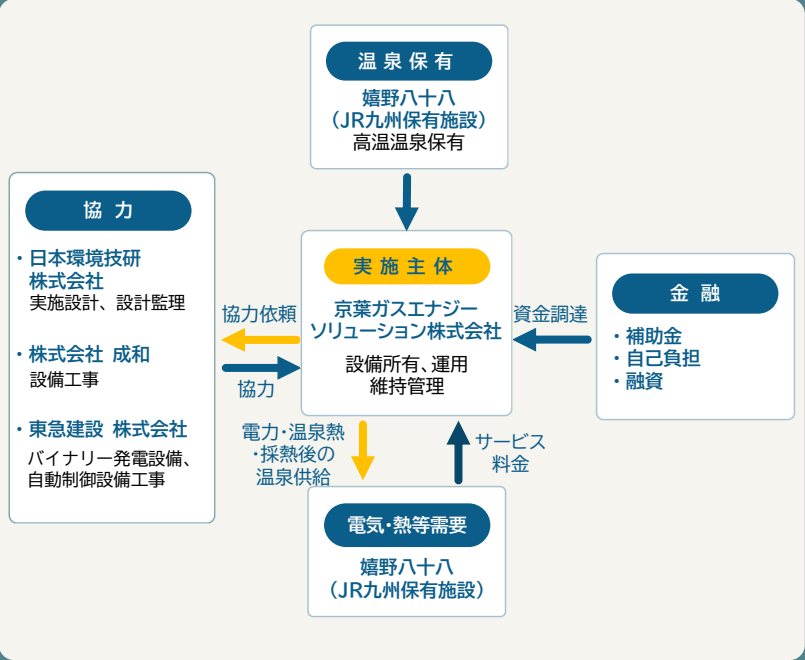
泉 質	ナトリウム-炭酸水素塩・塩化物泉	CO ₂ 排出量 削減 効果 382 t-CO ₂ /年相当 削減 ※1
熱利用温度	90℃・70℃	
利 用 温 泉	既存温泉	
総 事 業 費	4億4,000万円	



主な温泉熱利用方法

※本事例は「令和6年度温泉熱等の有効活用等普及促進調査等委託業務」にて調査・整理した事例であり、掲載情報は調査当時のものであることから、詳細な状況は変更されている可能性があります。
※1: CO₂ 排出量削減効果は、ヒアリング先による推定値(ボイラー使用分削減による効果、購入電力削減による効果)です。

実施体制



事業検討の流れ

